

独立行政法人自動車事故対策機構の平成30事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、主務大臣による平成30年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	平成30事業年度評価における主な指摘事項	令和元及び2年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<p>(安全指導業務等 指導講習・適性診断の充実・改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な指導講習の実現のために、講習方法の形式について更なる工夫が必要である。</li> <li>一般の高齢運転者にとって役立つ方法等についても検討すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な指導講習の実施について、指導講習業務検討委員会において、令和2年度からは「これからの講習の在り方」として講習方法等について検討していくこととしている。</li> <li>高齢運転者の事故防止対策として、大学機関と連携し、加齢変化に係る機能を測定する新たなテストの研究を令和2年度から着手する。</li> </ul>
	<p>(安全指導業務等 国の安全対策への貢献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者の安全管理をNASVAが担っていることは素晴らしいことだと思う。引き続き安全意識の向上に工夫するなどして努めて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸切バス事業の許可の更新制の導入にあたり「前回許可時から更新申請時までの間に行政処分を受けた場合は、更新許可申請時までに認定事業者による運輸安全マネジメント評価を受けること」が義務付けられた。こうした貸切バス事業者に対する運輸安全マネジメント評価の実施にあたり、所要の要員の確保を行うなど体制の整備を図るとともに、運輸安全マネジメント評価を実施する安全評価員の専門的知見の向上を図るべく、任用に係る研修体系を見直し、国土交通省が主催する研修等に要員を派遣したところである。今後とも引き続き、国が行う自動車事故の発生の防止のための対策に応じ、機構の安全指導業務等について、体制を確保しつつ、確実に対応していくこととしたい。</li> </ul>

	<p>(療護施設の設置・運営 知見・成果の普及促進、在宅介護者への支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文の発表数についても目標として追加することを検討するべきではないか。医学の世界において、論文は重みがある。これだけ学会発表数があれば、各療護センターにおいて、論文執筆が可能ではないかと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期目標等における、療護施設で得られた知見・成果に係る目標数値については、論文発表の件数を含めているところ。過去（直近では平成30年度）、一部の療護施設において論文の投稿が行われており、引き続き学会発表と併せて論文の発表が行われることが期待される。</li> </ul>
	<p>(介護料の支給等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護料受給者の交流会については、全支所において開催案内を行ったものの、平成30年9月に予定していた北海道地域合同（札幌主管支所、函館支所、釧路支所及び旭川支所）交流会が、平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の影響により中止となった。後日、それぞれの支所において開催を企画し、札幌主管支所では開催したが、3支所においては参加予定者が体調不良でキャンセルしたこと等のやむを得ない事情により開催できていない。そのため、次年度以降は、受給者等の都合や気候面等にも配慮しながら、交流会の開催を企画する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流会の開催企画にあたっては、受給者等の都合や気候面等にも配慮しながら、開催時期の調整を行う。</li> </ul>
	<p>(自動車アセスメント情報提供業務 わかりやすい情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザーの懸念について、NASVA から情報提供を行うことが重要である。ユーザーがどのような情報を必要としているか、アンテナを張り、NASVA から情報を発信していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報イベント等を通じて、引き続きユーザーの視点や必要としている情報等の収集を行い、わかりやすい情報提供業務を実施していくこととしている。</li> </ul>
<p>その他業務運営に関する重要事項</p>	<p>(自動車事故対策に関する広報活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組に工夫が感じられる点が評価できる。このような取組は、全国的に行うべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報活動において大きな波及効果が認められた好事例については、方法論等を組織で共有（横展開）することにより、</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供を持つ親などは安全な車に興味があることから、そういった層へ働きかける広報は非常に有効である。</li> </ul>	<p>効率的な業務運営と組織の底上げに寄与している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、事故防止業務、被害者援護業務及び自動車損害賠償保障制度に関し、効果的な広報活動を積極的に実施するとともに、NASVAの認知度向上に努める。</li> </ul>
--	---	--